

特 集

## 日本小児循環器学会第 13 回教育セミナーの開催にあたって

鎌田 政博<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup> 日本小児循環器学会教育委員会委員長

<sup>2)</sup> 広島市立広島市民病院循環器小児科

日本小児循環器学会教育セミナーは、小児循環器学の基礎から最新の知識までを学ぶ「生涯教育の場」を提供するために企画されてきました。今回は、第 52 回日本小児循環器学会会長 小川俊一先生のご好意の下、「Step up!」を目標に、前半は、日常診療の中で知っておきたい「不整脈」、「僧帽弁」について、重要な POINT を聴講できるように企画いたしました。

不整脈の診断・治療に関して、今や電気生理、カテーテルアブレーションの知識・技術を深め、また広める教育が重要であることは当然です。しかし、カテーテルアブレーションを専門的に行える施設は極めて限定的で、数えるほどしかないといっても過言ではないでしょう。多くの臨床医にとって、12 誘導心電図でどこまで読めるか、診断できるかが現実的な問題であり、ひいては患者の QOL を改善する鍵となっているのではないのでしょうか。そこで、key word を a) 12 誘導心電図、b) 負荷テスト、c) 学校心臓検診としてセミナー前半を構成しました。

後半は、僧帽弁またその異常について、a) 解剖、b) 診断、c) 治療の順に概説していただきました。房室弁、特に僧帽弁の異常は「心不全の悪循環」を形成する重要な領域です。その解剖をしっかりと捉えた上で、心不全への悪循環に陥らないための予防策、またその輪を断ち切るために必要な術について考えてみましょう。

わずか 30 分の講演内容ですべてが分かるわけではありません。しかし、各領域の専門家に書き下ろしていただいた講演内容が、不整脈、僧帽弁疾患を理解するための律速酵素として、明日からの診療に役立ってくれることを期待しています。